

# 池袋小学校の子どもたちの学力定着と向上のために

## 平成23年度 授業改善推進プラン

### 平成23年度に実施する授業改善の方策等

教科等	課題(分析・考察によって明らかになったこと)	改善のための方策(今後 何にどのように取り組むか) ・短期取り組み 中・長期取り組み
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読む力、書く力ともに個人差が大きい。特に説明的文章を読み取る力が弱い。</li> <li>・語彙が乏しく、言語についての知識が定着していない児童が多い。</li> <li>・漢字はくり返し練習しようとする意欲はあるが、活用面では個人差が見られる。</li> <li>・正しく、整った文字を書ける児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩や教科書の音読等を学習タイムや家庭学習を中心に取り入れ、くり返し練習するとともに、その内容を的確にとらえられるよう指導を工夫する。</li> <li>・日記や短作文等書く機会を意図的、計画的に取り入れ、書いた作品を読み合う活動を充実させる。</li> <li>・国語辞典の活用の日常化を図り、新しい単元の学習に入る前には必ず意味調べに取り組ませ語彙を増やしていく。</li> <li>書写の時間を充実させ、毛筆指導を通して正しく整った硬筆文字が書けるよう意識付けていくようにする。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象に関心をもっている児童が少ない</li> <li>・資料を活用した学習は個人差が大きい。</li> <li>・グラフや表の読み取りが十分できないため、活用できない児童が多い。</li> <li>・地理や産業についての既習事項の定着が不十分なため思考判断まで及ばないことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に社会事象の話題に触れ、解説したり感想をもたせたりする活動を通して興味をもたせるようにする。</li> <li>・都道府県名など、ゲーム的要素を盛り込み楽しく、小テストなどで繰り返し学習できるようにして定着を図っていく。</li> <li>ICT機器の活用を図り、資料活用の技能が高められるよう、資料の見方、活用の仕方についてくり返し指導する。また、資料をもとに考え、話し合う活動を計画的に設定する。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項の定着が十分でなく、特に図形及び数量関係の領域において理解が不十分である。</li> <li>・観点別に見ると、数学的な考え方が十分に身に付いていない児童が多く、文章題を苦手としている。また、個人差がとて大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート指導の定着を図り、既習事項の可視化を図る。</li> <li>・習熟度別少人数指導の中で、既習事項の振り返りをくり返し行い、定着させながら新しい課題が解決できるようにしていく。特に、図形及び数量関係の領域においては、既習事項の振り返りを怠らない行う。</li> <li>ICT機器の活用を図り、多様な考えを出し交流できる授業を工夫し、自分の考えを表現できる機会を増やす。</li> <li>題意の読み取りを深めるために文章題を中心としたドリル学習に取り組む。</li> <li>「東京ミニマム」を活用し、個に応じた段階的な指導を行う。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に親しむ機会が少なく、身近な自然現象に興味・関心がもてない児童が多い。</li> <li>・目的をきちんと捉えられないまま実験を進めるため、実験結果から分かったことを導き出すことができない。</li> <li>・科学的思考が、十分に育ってない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習問題の把握 予想 観察・実験 結果 考察 まとめの流れをしっかりと押さえ、ノートへの記録の仕方を具体的に指導する。</li> <li>・考察の場面を大切に、グループや全体での話し合いの場面を意図的に設定する。</li> <li>ICT機器の活用を図り、教材の開発、整備を行うことにより、児童の興味・関心を喚起できるような問題の提示を工夫する。</li> </ul>
他の教科や言語活動の充実等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活科の学習においては、活動・体験することに興味をもって取り組むが、自ら活動を進めていく力に欠ける。</li> <li>・音楽では、二部合唱及び合奏における音のバランス等に課題がある。</li> <li>・図工では、基本的な技能が身につけていなかったり、イメージがふくらませられなかったりする児童がやや目立つ。</li> <li>・言葉を正しく使える児童が少ない。</li> <li>・文章を読み取れる児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の見通しをもたせるとともに、友達の気付きを共有したり、観点を絞ったりすることで、より深い気付きができるように指導を工夫する。</li> <li>・お互いのパートの演奏を聴き合い音のバランスを感じ取らせながら、練習に取り組ませる。</li> <li>・身近な経験をもとに題材を練るとともに、写真や実物、音、物語など多様な資料を用意し、提示を工夫する。</li> <li>・話し言葉や書き言葉にふさわしい語彙を増やし、意味を理解し正しく使えるようにする。</li> <li>「読書タイム」での読み聞かせや「読書週間」「読書月間」での取り組みを通して、読書の日常化を図る。</li> <li>キーワードに着目したり、マーキングしたりして文章を読み取るよう支援する。</li> </ul>

## 全体体制での取り組み

### 基本的な生活習慣の定着・規範意識の確立

- 基本的な生活習慣を身に付け、家庭と連携して定着を図り、学力向上へとつなげる。
  - きまりを守る、けじめをつける等の規範意識を高め、学習に対して粘り強く取り組ませる。
- 教師の指導力の向上を図る
- 教師間の協働関係を構築し連携を密にする。学年会・少人数授業の打ち合わせ等で指導の中身についての話し合いを充実させる。
  - 豊島区教育研究校として、「考えることが楽しい授業づくり」を研究主題の下、指導方法の工夫や教材研究、教材開発をすすめる。
  - 全学年・全学級が研究授業を行い授業力の向上に努める。
  - 各教科の授業の充実をめざし、発問の仕方や板書の工夫・改善を図るとともに、評価の観点を明確にし、共通理解する。
- 日本語学級の充実及び各学級との連携
- 来日した児童の日本語に対する関心を高め、全教科にわたり日本語で学習がすすめられるように支援・指導をする。各担任との連絡、報告を密にし、児童理解に努め、実態に応じて、個別、または少人数指導を計画的に行う。
- 学習タイムの活用（補習の実践）
- 毎週、全校体制で、火曜日・水曜日に「算数の学習タイム」、金曜日に「読書タイム」を実施していく。特に「算数」はどの学年も「計算力の定着や向上」を目標にして、計画的に行っていく。
- 夏期休業中の補習教室を全学年実施する。（5日間）
- 問題プリントやワークシートは、計算領域を中心に、一学期の学習内容が習熟できるものにする。文章問題を重点に少人数担当教諭が、系統的に問題を作成し、全校体制で指導する。
- 家庭学習の充実
- 家庭への啓発を促し、家庭学習の習慣化を図る。学年に応じて、毎日30～60分取り組ませる。（今年度、家庭学習の提出率が80%以上となってきた。）